

企業から見た
インターンシップ

野村證券

金融市場の最前線に密着し、 理系の活躍フィールドを知る

現在の金融市場は理系人材の存在なくして語ることはできない。その活躍範囲は特定の部門に限らず、非常に広い。「証券会社では、多くの理系人材が能力を発揮しています。インターンシップに参加して、その活躍フィールドの広さに驚く学生も多いです」と、自らも理系出身で、野村證券株式会社でトレーダーとして活躍する赤坂拓哉氏はそう語る。今回は、赤坂氏をはじめとした金融の最前線で働く理系人材のリアルな姿を知ることができる野村證券のインターンシッププログラムを紹介しよう。

あらゆる金融市場に広がる、
理系人材の活躍フィールド

証券会社の提供する金融サービスは実に多岐にわたり、その多くの場面で理系スキルを存分に活かすことができる。こと野村證券は日本を代表する証券会社として、高い専門性を持って幅広い金融商品・サービスの提供をしている。

赤坂氏が所属するのは、「グローバル・マーケッツ」と呼ば

れる部門で、その機能は大きく4つある。①顧客に対して、情

報提供やソリューション提案を行う「セールス」。②金融商品の売買価格の提示・市場への流動性供給を担う「トレーディング」。③顧客ニーズに合った商品の開発・組成を行う「ストラクチャリング」。④数理モデル開発・定量分析に基づいたソリューションを提供する「クオンツ」。これらすべての機能が常に連携し、顧客である国内外の機関投資家のニーズに対して高度なアウトプットを提供している。業界に先駆けて金融工学のアプローチをとってきた同社では、

■理系学生へのメッセージ

理系の素養が発揮できる仕事は、世の中に数多くあります。あまり早い段階で希望の仕事を絞り過ぎず、まずは広い視野で様々な情報を仕入れるようにしてください。そして業界を知るには、本を読むよりも実際に企業に足を運ぶことが一番です。ですから、今のうちにいろいろな企業のインターンシップに参加をして、アグレッシブに質問をたくさんして、自分に合いそうな仕事や企業を見つけるようにしてください。その中の一つとして、当社のインターンシップに参加していただけたら嬉しいです。



野村證券株式会社
ホールセール部門 グローバル・マーケッツ
赤坂拓哉（あかさか・たくや）

数理的思考力や定量分析力を生かして多くの理系出身者が活躍しているのだ。

とはいえ、具体的にどのような理系スキルがどこで活かせるのか、学生の立場からは見えにくい部分もある。大学院で数理情報学を専攻した赤坂氏も、理系金融といえばクオンツというイメージが当初はあった。「実際は、理系の活躍フィールドはそれだけではありません。証券会社のあらゆる業務が理系の学問と結びついていることを、ぜひ理系学生にも

知っていただきたいですね」

また、専攻分野も金融工学に限らず、数学、物理、宇宙工学、薬学、農学、地学、建築など、驚くほど多様だ。こういった多彩な人材が、金融市場においてセールス、トレーディング、ストラクチャリング、デリバティブ・クオンツ、リサーチ・ソリューション等様々な業種で能力を発揮している。野村證券のインターンシッププログラムでは、その姿を間近に見ることができる。



一刻と変化する金融市場の 最前線に密着する貴重な機会

野村證券のホールセール部門では「グローバル・マーケット」「リサーチ」「インベストメント・バンキング」の3つのコースでインターンシッププログラムを実施している。今回は「グローバル・マーケットコース」について紹介する。開催期間は1～5日間。まずグローバル・マーケットで扱う商品や日々の業務について講義を受け、基礎的な知識を身に付ける。その後は、現場で実務を見学。実際にトレーディングフロアに入り、すぐ近くから社員の仕事に触れることになる。いわゆる「ジョブシャドウイング」である。ローテーションを行い、可能な限り多くの社員に接していくのも特徴だ。商品・機能別に総計20～30人分の業務を体感することで、グローバル・マーケット全体の業務や社員の真の姿を知ることができる。また、ローテーション終了後は懇親会で、社員との交流や質疑応答を行う時間も設けている。

課題を与えてグループワークを行うインターンシップも多いが、本プ

ログラムでは行わない。金融のプロと同じ空間で臨場感を味わうことが、業務の理解につながると考えているからだ。「ただ見てもらうだけではなく、その場で何が起きているのか一つひとつ説明します。金融の専門知識がない方にも面白さを感じていただけるような解説を心掛けています。学生からも、積極的に疑問を投げかけてもらえると嬉しいですね」

24時間365日、休まず変化し続ける金融市場。世の中の動きを如実に反映するからこそ、時に市場が荒れることもある。現場体験型インターンシップの醍醐味は、そこにあるのかもしれない。「例えば海外の政情不安や日銀の金融政策に変更があった時など、トレーディングフロアはピリツとした空気になる、激しい売り買いの応酬となります。そういった状況も含めて学生には様々な場面を見て、魅力を感じてもらいたいですね」

自身の専攻と金融業界の 共通点がきつと見つかる

短期間で金融市場の面白さを体感できるこのプログラム。金融知識を

必要としないため、幅広い分野の学生がこれまでに参加しているという。「半数以上が理系で、専攻も様々。まだ金融に興味を持ったばかりという学生の参加も少なくありませんが、2日も経つと『物理の考え方がこんなところで関係しているのか』『ここまで数理的な感覚が活かせるんだ』といういろいろな発見があって、どんどん興味がわいてくるんです。表情も変わりますね」。また、数日間のうちに数十名もの社員と話すことで、刺激を受ける学生が多いという。「証券会社と聞くとリテールビジネスについて知っている学生は多いですが、グローバル・マーケットの業務はなかなか外からは見えません。しかし実際に現場に足を踏み入れてみると、国籍・性別・専攻・新卒・中途問わず多様なバックグラウンドの人材が、それぞれの強みを発揮しながら連携していることに気が付くでしょう。『野村證券のイメージが大きく変わった』という声もよく聞こえてきます」証券会社のトレーディングフロアで、プロの仕事に一日中密着できる。これは、理系の知的好奇心を存分に満たすチャンス。貴重な経験となるに違いないだろう。